



## 日本腹部放射線学会ゴールドメダル受賞にあたって

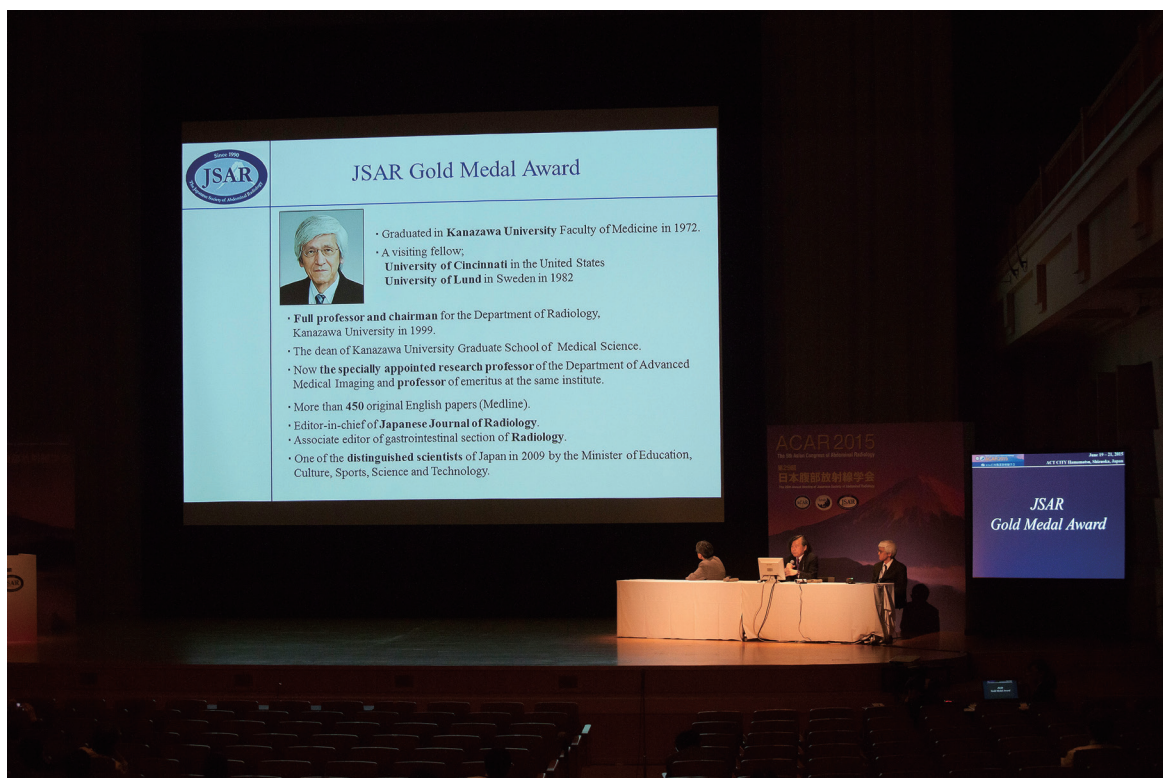
金沢大学大学院先進画像医学研究教育講座

松井 修

この度は日本腹部放射線学会ゴールドメダルを授与いただき有難うございます。1990年の本会（日本腹部放射線研究会）の発足時に故板井悠二先生、打田日出夫先生のお誘いで創立メンバーに加えていただき、板井先生が急逝された後を引き継いで2003年から2012年の間代表幹事を勤めさせていただきました。この間皆様からの力強くまた暖かいサポートをいただきました。改めて御礼申し上げます。現在、組織は、日本腹部放射線学会と発展的に改組・改称され、森 宣代表理事のもとでますます発展を続けています。嬉しい限りです。

本会が発足した当時は、わが国の主要病院に全身CTや全身用のMRIがほぼ普及し終わった時期であったかと思えます。新しい知見や情報に溢れ、夢中でそれらを吸収する一方で、日々、未知の画像情報と遭遇する時代でした。こうした中で、“1例1例の画像が表現するものを徹底的に病理・病態と対比しながら解析し普遍的な概念を見つけ出す”作業が重要であろう、というのが本会設立の大きなモチベーションでありコンセプトでした。もちろんこうした考えは特別なものではありません。しかしながら、わが国では、当時、すでに胃癌診断における個々の症例での二重造影法と病理組織像との精緻を極める対比研究で大きな成果があがっていました。したがって、特に消化器領域に携わるものにとって、こうした考えはより自然でかつ強かったのかも知れません。加えて、1例毎の画像と病理・病態の対比は日々の診療にすぐに還元・応用できる利点もあり、このコンセプトはその後今日に至るまで本会の基本的な考え方・運営方針となっています。この間、膨大な症例の検討がなされ、私自身多くのことを学びまたアイデアを得てきました。もちろん日常診療にも大変役に立ってきました。わが国の腹部領域の画像診断において日常診療のみならず研究においても大きな役割を果たしてきたものと考えています。

今回の学会はACARとの共催で行われます。本会の国際化も組織としての懸案でありました。特に、多くの共通の腹部疾患がみられまた今後交流がますます増大するアジア諸国との連帯は、今後の世代に大変重要と考えました。2007年の宮崎での本会（田村正三先生会長）に併催して細々とACARを発足させましたが、今回の内容はまさに隔世の感があります。その礎が立派に構築されたことを実感しています。時を同じくしてこの荣誉に恵まれますことを改めて御礼申し上げます。これまでともに歩んだ先輩・同世代の方々をはじめとする会員の皆様に深謝いたします。本会の今後のますますの発展を祈念いたします。



ゴールドメダル授与にあたり、松井先生に「日本腹部放射線学会ゴールドメダル受賞にあたって」についてご講演頂いた。



名誉会員である松井先生に森代表理事よりゴールドメダルが授与された。  
授与されたゴールドメダル  
表は松井先生の顔型、裏は日本腹部放射線学会のロゴであり、石膏彫刻の過程を経て作製された。



松井先生と森代表理事、第 29 回日本腹部放射線学会の竹原康雄会長と記念写真